



# 一中だより

令和6年度 第13号 令和6年11月7日(木)

## 『学びの秋』を実感できた学習発表会でした



10月31日に開催した学習発表会では、『午前：合唱コンクール、午後：展示見学と文化部等の発表』と昨年同様の日程・内容で実施しました。昨年度は10月中・下旬に感染症が流行して実施が危ぶまれたことや今年の体育大会が荒天によって中止となったことが開催前には頭をよぎり、是非とも学習発表会は行いたいと願っておりましたので、予定どおり実施できたことを嬉しく思っております。学校行事を当たり前の如く実施する難しさを実感するとともに、行事を通して生徒の成長ぶりを目の当たりにできる喜びをあらためて噛みしめることのできた今年の学習発表会でした。



午前中の合唱コンクール・学年合唱では、1年生の"はつらつとした初々しさ"、2年生の"男声と女声とのバランスの取れ始め"、3年生の"奥行きある重厚感"などといった各学年の発達段階に応じた歌声を聴くことができました。また、各クラスが金賞を目指して努力してきた思いや団結力も取り組む姿勢から感じることができました。午後は展示見学(美術部の作品、1年高原学校新聞、2年チャレンジウィーク新聞、3年修学旅行新聞、美術授業の作品)では、日々の授業での真剣な取組の成果を感じるとともに、美術部の作品からは制作者の作品に対する思いやこだわり、制作意欲の高さが伝わりました。その後は体育館で、科学部のロボコン映像、英語スピーチ、吹奏楽部の演奏発表が行われ、各文化部の成果を存分に発揮していました。各学年のテーマ別の新聞や美術授業の作品は、その後も掲示しておきましたので、学習発表会の翌日から行われた三者面談で来校された際にご覧いただけた(これから三者面談の皆様には来校時にご覧いただける)ことと思います。

なお、合唱コンクールでの表彰クラスと曲名を次に記し、讃えたいと思います。

1学年	金賞：1組「耳を澄ませば」	銀賞：2組「ぼくのおうえんか」
2学年	金賞：5組「合唱」	銀賞：2組「予感」
3学年	金賞：5組「それがし、ひと」	銀賞：4組「大地讃頌」

「学習活動や部活動等の成果の発表を通して、相互の努力を認め合い協力する態度を養い、よりよい一中を創造していこうとする姿勢を育てる」「人前で発表する能力を育てたり、見たり聞いたりする際の望ましい態度を育成する」等々といった学習発表会の目的を生徒たちは良く理解し、しっかりと取り組んでいたと思えました。

たくさんの保護者の皆様にご来校いただき、生徒たちも気持ちに張りが生まれ、頑張る姿を見てもらえる喜びと充実感を感得できたことと思います。

今年度の学習発表会は、皆で創りあげて成功裡のうちに終え、一中の素晴らしさをまた一つ発揮することができました。

## 『予告なし避難訓練』でも冷静に対応できていました

10月17日の5校時に地震による火災発生を想定して行いました。今年度は、「予告なし避難訓練」を行うよう市教育委員会からの連絡があり、本校では初めての取組でしたので、実施日は事前に伝えつつも避難訓練の時間(時刻)は予告なしで行いました。

訓練では、最初に教室で地震発生を校内放送で聞いてから机の下にもぐり、その後、1階東端の第3理科室から出火した連絡を受けて校庭南側へ避難しました。教員は必要最低限の指示にとどめ、生徒は指示放送の内容をよく聞き避難経路を考えつつ集団行動の原則を守って行動するなど危機管理に関わる判断力や実践力の育成を主なねらいとしました。

生徒は「押さない」「駆けない(走らない)」「しゃべらない」「戻らない」といった、避難時の原則である[お・か・し・も](または[お・は・し・も])をしっかりと守って速やかに避難できました。予告なしでしたので、冷静さを失い動揺する生徒や全く動けなくなる生徒もでるかと思っておりましたが、そのような生徒はほとんどいませんでした。皆、落ち着いて対応できていました。500人を超える生徒が短時間にそして大きな混乱なく整然と全員が避難できたことは素晴らしいことと思います。昨年度同様に今年も期待を裏切らない動きは「さすが、一中生」と感服しました。

今後も考えられる様々な危機・危険を想定して、より実効性の高い避難訓練を行いたいと思っています。生命の大切さを第一義に考えた危機管理能力を高め、仮に災害が発生したとしても落ち着いて危険を回避できるような生徒をより多く育成することで、安心で安全な学校に少しでも近づけるようにしたいと考えております。



## ヘルメットの「あごひも」が緩くなっていませんか？

毎朝、正門で生徒を出迎える中で、心配なことが最近あります。それは、**ヘルメットの顎ひもが顎に掛からないほど緩い生徒を時に見かける**ことです。特に、新型のヘルメットをかぶっている生徒に見かけます。新型のヘルメットは安全機能を向上させるために顎ひもの調整方法が複雑化し、締めたり緩めたりすることに手間がかかる構造になっているからと考えられます。過去に本校の生徒が自動車との事故を起こした際、顎ひもをしっかりと締めてヘルメットを適切に着用していたことで頭部が守られ大事に至らなかった事例もあり、顎ひもは命綱とも言えます。せっかくヘルメットを着用していても、**事故に遭った際に顎ひもが緩くて外れたりズレたりして頭部を守れなくなってしまうのでは、着用する意味はない**と思います。学校でも顎ひもの適正な装着・調整については指導しております。(生徒の命を守るために、今後、装着・調整状況の個別確認も必要かと考えております。)

ご家庭におかれましても、自らの命を守るためにヘルメットを着用する意味を諭しながら教えるとともに自転車に乗るときはしっかりと顎ひもを装着するよう併せてご指導願います。



## 11月17日(日)9:30~11:30に「資源回収」と「制服等リユース販売会」を実施します

資源回収は校庭、リユース販売会は体育館で行う予定です。

詳細は既にお伝えしている案内をご参照下さい。

売上金は生徒の教育活動の原資となりますので、ご協力をお願いします。